新しい
みなと
賑わい
創出計画

2012年3月31日　発行
監修：ICPC（今治シビックプライドセンター）

【お問い合せ先】
ICPC 事務局　〒794-0015 今治市常盤町 2-3-4　TEL/FAX 0898-32-5126
H.P：http://www.icpc-imabari.jp/　mail：icpc@major.ocn.ne.jp

ICPC
IMABARI CIVIC PRIDE CENTER
http://www.icpc-imabari.jp/

今治シビック
プライドセンター
代表 友田康貴

はじめに

ICPC(今治シビックプライドセンター)のこれまでの活動を振り返ると、『みなと再生事業』において、仲間づくり・ワークショップの運営・市外協力者獲得・賑わいについての議論等《点》としての活動を行ってきました。
これまでの活動の成果を活かし、『市民主導のみなと再生』を明確にするため、平成23年度の活動を【新しいみなと賑わい創出計画】の仕組みづくりを行いました。
計画作成に際し、「新しいみなとは誰が使うのか？」という観点から考え、施設整備の進捗状況を考慮すると、平成23年度から賑わい創出に対する市民提案を作成する必要性を感じました。これまでの公共事業では施設整備後、利用方法を考えるという手法が主流でした。それでは市民の意見等が事業に反映されません。それを改善するためにICPCは活動しています。

ICPCが掲げる“シビックプライド”の精神。
『まちづくりに自発的に関わっているという自負心をより多くの方に持ってもらい、新しい市民の誇りを生み出し、まちづくりへとつなげていく』このために、まず市民主導のみなとの再生に取り組み、仕組みに関する提案が必要となります。
平成23年度からコミュニティデザイナーとして全国のまちづくりに関わっている山崎亮さんを迎え、【新しいみなと賑わい創出計画】を作成しました。
今年度の成果としては、みなと全体を一つの公共空間ととらえ、どのような活動ができ、どういうゾーニングがありうるかを考えました。

『新しいみなとの賑わいづくりは誰がするのか？どうするのか？』

この問いに明確に答えられる仲間づくりが、この提案書の重要ポイントです。

この提案書をご覧になり、少しでも心動かされた方はぜひ私たちと一緒に新しいみなとに賑わいを創りましょう。新しいみなとに賑わいを創るのは私たち今治市民です。

studio-L
代表 山崎　亮

今治に来てみて

今治が盛り上がっています。
かつて、物流の拠点であった今治港が地域の人々の交流の拠点として生まれ変わろうとしています。そこでは、散歩したり、のんびりくつろいだりすることもできますし、写真展をやったり、コンサートをやったり、今治市民の皆さんの活動の場として使っていただきたいと考えています。港に行けば、いつも何かおもしろいことをやっている。そんな場所になってほしいと思っています。

そんな楽しい場所を実現するために、まずは地域の方々に集まっていただき、全9回にわたり、みんなで「港の使いこなし」を考える会を実施してきました。港の現地見学や、周辺団体のヒアリングなども行いながら、新しいみなと空間をどのように使っていけばいいかについて話し合いました。この話し合いの中では、地域の特徴や資源をいかしたおもしろいアイデアがたくさん生まれています。

港の整備が始まる前から、これほど地域のみなさんが熱い想いを持って活動を始めておられるのは本当に素晴らしいことです。新しいみなと空間が完成するのはまだしばらく先ですが、それまでの間に市街地のいろんな場所でみんなが考えたおもしろい活動をいろいろと試してみて、ひとつひとつのプログラムの質や魅力を磨き上げていってほしいと思っています。

現在、日本の地方都市のほとんどが人口減少という課題を抱えています。今治も例外ではなく、まちなかから人が減り、商店街にシャッター店舗が増え、地域全体がさびしい雰囲気になりつつあります。みなさんが取り組まれている港の再生は、そんな今治において、ひとつの「はじまり」を生み出していると思います。港の再整備をきっかけにスタートしたこの取り組みをうまく利用し、港にとどまらず、公園、商店街、駅前、地域全体と、今治全体を元気にする取り組みにつなげていってもらいたいと願っています。

みなと再生事業コンセプト

「交通」の港から「交流」のみなとへ

《「交通」の港から「交流」のみなとへ》というコンセプトで進行しているみなと再生プロジェクトにおいて、『どのように「交流」を創るのか？』を考えることがICPCの役割でした。
“みなとが新しくなる＝市民が訪れる”という保証はなく、新しいみなとに付加価値を創り上げることを考えています。

ICPC の方向性　新しいみなとに人が集まる仕組みを創る

人が集まる仕組みとは･･･
ディズニーランドのように「ようこそ」と言って誰かが迎えてくれる『みなと』とは･･･歌って踊ってくれるキャストがいるような公共空間。パブリックのために市民に何ができるのか。住む人たちが立ち上がり、自分たちの私益だけでなく公益にために行動を起こす。このような仕組みを創らないと交流のみなとは出来上がりません。このようなキャストの育成とにぎわい創出コンテンツを模索しました。
※キャストとは･･･「プランニング（計画）やマネジメント（運営）に参加する人たち（市民）」

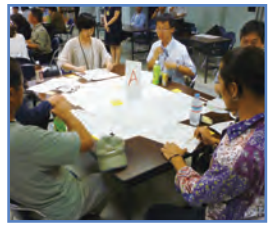
人とみなとを繋げるだけでなく、人と人･人とコト（仕組み）を繋げ、新しい関係性により、公共としての成長を創造。

それらの関係性が成長することにより、「地域にとってなくてはならない存在」となる。

みなと再生事業に参加することにより、「私」の成長（喜び）が得られ、市民力アップにつなげる。

ふたつの軸

1 新しいみなとを支えるキャスト育成



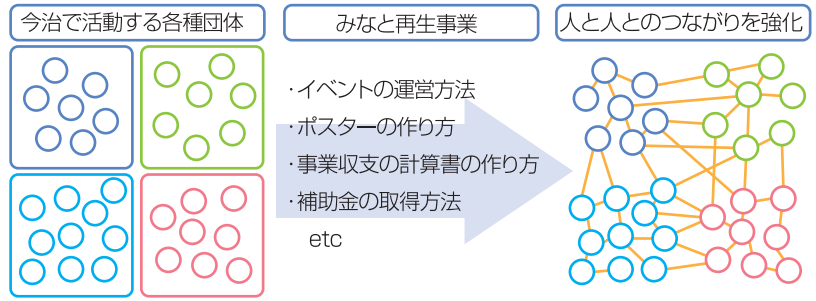
新しいみなとを市民が“使う”という視点で考えるため、コミュニティデザイナーの山崎 亮さんを招聘。全９回行われたワークショップにて、アイスブレイクやチームビルディングの要素を積極的に取り入れ、計画を計画だけにとどめず、計画を推進する仲間づくりを主眼としました。
「交流」のみなとを目指すみなと再生では、キャストの方々をいかに増やすかをキーワードとし、イベントを行う目的も『仲間集めのため』と明確に定めました。

2 『賑わい』創出コンテンツ

新しいみなとを考える上で、まず今治の魅力と課題を整理し、将来像を話し合いました。その後フィールドワーク等を行い「新しいみなとで何ができるか」を考えました。出てきたコンテンツを「交流、遊び、学び、食・売る」の４つの視点に絞り込み、活動の具体化を図りました。
これらの話し合いの中で考えたことは、実現性です。まず自分たちができる事を考えました。また今実現不可能なものでも、どのような協力者がいれば実現可能なのかを考えました。

1 新しいみなとを支えるキャスト育成

みなと再生への住民参加を通じてキャストを育成



いろいろなノウハウを得ることにより、
それぞれの団体がパワーアップ

みなと再生事業に関わることにより、人と人とのつながりを強化し、一緒に活動する仲間づくりを行う。街を楽しくするという目的を共有することにより良質な関係づくりを行う。

この良質な関係性の成長により『新しいみなと』
＝『地域にとってなくてはならない存在』

この良質な関係性が新しいみなとのキャスト育成につながる

新しいみなと

1．キャストが主体的に運営に関り、マネジメントする場
2．自己実現できる所であり、充実感や社会的な関係の得られる場
3．「お客さん市民」を増やすのではなく、主体的に当事者意識を持つ市民を増やす場

平成２３年度のアプローチ
仲間集めをコンセプトとしたイベントの開催

イベントを行うことが目的ではなく、多くの仲間の人に集まってもらうこと、そして集まった人で役割分担を行い、組織化していくことが目的です。その後今治のまちづくりをすること、それが商店街のためになったり、新しい知り合いができたり、チームができたりすることが目標です。

現　在
ワークショップに参加している人数でみなと再生が進むわけではなく、活動の担い手となる人たちの数が少ないのが現状。

近い将来
仲間を集めるために共有できるプロジェクトを開催。企画・準備等に時間をかけプロセスを重視し、チームづくりを目標としました。

その後
コンセプトをおさえ、進行していけばチームの母体や組織ができます。その仲間とともに事業を推進します。

イベントの案出し

実現できそうだけどちょっと難しい

「何か大きいコト」

みんなの協力が必要
仲間を集めやすい

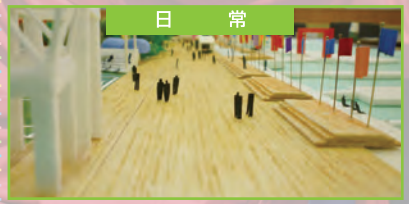
企画会議

家島視察
キャストとして活動している先輩に会いに行きました。

BARI NewPort Festival step1 の開催<３月 24 日（土）>

仲間集めをコンセプトとしたイベントBARI NewPort Festival step1をふれあいマリン広場にて開催いたしました。今治の港や船にもっと親しんでいただくために、紙船をつくりプールに浮かべることと今治だいすき倶楽部でメッセージボードに今治に対する想いを書いていただき、写真を撮影しました。さらに今治ヨットクラブの協力によりヨット体験乗船、アーティストによるフェイスペインティングなど様々なイベントを実施しました。
午後1時30分から午後5時までで、総参加者数は170名程、協力者およびスタッフは50名程でした。

B 日常と非日常が同居する場所に賑わいが創出される



- 親子が、快適に過ごせる公園を訪れる
- 天気のいい日、サラリーマンが外でランチ
- 中学生、高校生が楽器の練習を行う
- ダンス、フラダンスの練習が行われている
- カップルがゆっくり眺めのいい景色を見ている
- ウォーキングをしている
- 犬の散歩をしている
- 絵を描いている人がいる

- 発表の場
- おんまくの主会場
- Ｂａｒｉ-Ｓｈｉｐの主会場
- 音楽祭、芸術祭
- 海の祭典
- 様々なイベントの主会場
- 祝勝会パレード会場
- フィッシャーマンズワーフ

2 『賑わい』創出コンテンツ

A 新しいみなと＝今治市民の社交場

新しいみなとに求められるものは、市民や観光客の「集い」の場となる新しい「社交場」

新しいみなとは、市内･市外の人が自然に集まり、そこに行けば楽しいことが起きている、ザワザワとした賑わいのある公共空間を目指します。

こうしたイメージで参考となるのが、欧州の都市に見られる「広場」のイメージです。ベネチアのサンマルコ広場は、ベネチア観光の起点となっており、観光客はもちろん、市民も何かがあれば自然に広場に集まってくるという「公共空間」となっています。サンマルコ広場は、多彩なイベントに利用されることで、日常的な賑わいと非日常的な祝祭性を同居させています。こうした欧州都市の「広場」がもっている機能を取り入れながら、今治独自の魅力を生かすコンテンツを発掘･創造していくことが、新しいみなとの『賑わい』のポイントになります。

「海」と「まち」を結ぶ

海とまちを結びつける、魅力的な「景観」の創出
海から発展した今治の魅力を生かす街づくりの契機とする

「人」と「海」を結ぶ

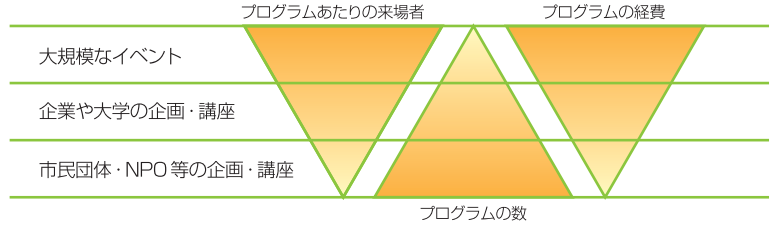
海を舞台に生きる「海の市民」としての今治を展開
日本一の海事都市･今治を発信。
来島海峡・魚など今治の持つ資産を再確認。

「まち」と「人」を結ぶ

港や中心市街地の「再生」に参画する人材育成
まちが大好きな「人」が集う場所から、中心市街地再生へ派生。

C 日替わりのプログラムが展開される変化のあるみなと

多様な主体がみなとに集い、日替わりで幅広い分野のプログラムが展開されるような場所づくりを目指す。みなと空間において展開されるプログラムは、プログラムあたりの来場者が多くはないが、数多くの団体が日替わりで実施できれば、積算すれば非常に多くの利用者を呼び込むことができるものを数多く展開する。



大規模なイベントの開催は多くの経費がかかるが、市民活動団体（NPO 等）のプログラムでは多くの経費はかからず、場合によっては施設使用料を設定する形も考えられる。

市民活動団体によるプログラムから、企業・大学のプログラム、大規模なイベントまでを、うまく組み合わせることで、年間を通じて変化のある港のにぎわい空間を創出することができる。

01 マンツーマンの今治観光
自転車で市内を案内

比較的コンパクトな市街地を持つ今治の特長を踏まえ、自転車で名所やお店をまわることが出来る観光コースを開発する。また、コースを案内できるガイド役を育成する。

参考事例（自転車ガイドツアー）
場所：愛媛県今治市
主催：中心市街地再生協議会 サイクル部会

02 よりスムーズな自転車観光を実現
自転車積載バスの運行

自転車が積み込めるバスを運行し、自転車とバスを使い分けながら、より快適に市内観光できる交通ネットワークを構築する。

参考事例（自転車ラックバス）
場所：神奈川県平塚市
主催：神奈川中央交通株式会社

03 自転車観光客の立ち寄りスポット
自転車カフェ（サイクルカフェ）

自転車観光客が気軽に立ち寄り、休憩や観光の情報交換、自転車メンテナンスなどができるカフェを設置する。

参考事例（シクロカフェ）
場所：愛媛県今治市
主催：NPO法人シクロツーリズム しまなみ

04 今治オリジナルの海の駅
海をより身近に感じられる社会生活の実現

港を出発点として発展した今治の歴史を踏まえ、自然環境学習の取り組み、体験学習、海洋教育等の拠点として「海の市民」を増やす。

参考事例（海の駅）
場所：神奈川県横浜市
主催：NPO法人 海の駅ネットワーク
海を楽しみ、海を味わい、海に憩う

05 「漁師の波止場」フィッシャーマンズワーフ
来島の魚と人を結ぶ拠点の設置

「来島海峡の魚は美味しい！」と今治市民は誰もが口をそろえるが、「何処で食べられるの？」という問いに答える今治独自のフィッシャーマンズワーフを展開。

参考事例（サンフランシスコ フィッシャーマンズワーフ）

06 市民ガイドによる港めぐり
瀬戸内クルージング

海からの風景を楽しむクルーズを行う。また、ボランティアガイドの取り組みと連携を図り、船上ガイドの育成も行う。

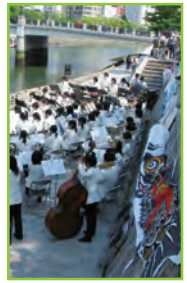
参考事例（急流観潮船）
場所：愛媛県今治市吉海町
主催：（株）しまなみ

07 港を巡る楽しさを提供
港八十八カ所巡り

市内に点在する、多くの港と交流を図りつつ、テーマ性を持たせたイベントや連携した取り組みを実施する。

参考事例
場所：関西圏
主催：関西讃岐うどん巡礼 実行委員会

08 港を音楽空間として活用
内港で船上コンサート（野外コンサート）



内港の地形的特性を活かして船上をステージとしたコンサートを開催する。

参考事例
場所：広島県広島市
主催：水の都ひろしま 推進協議会

09 地域の生きた技を伝承する
体験型教室
（船・絵画・クラフト等）

まちに住む名人を探しだし、その方を講師に子どもを対象とした体験型教室を開催する。

参考事例
場所：和歌山県西牟婁郡 すさみ町
主催：NPO法人魅来づくり わかやま

10 廃船を誰もが使える施設に変える
船の移動図書館

廃船を利用した船の移動図書館を開設する。

参考事例（電話ボックスを図書館に）
場所：イギリス
主催：電気通信事業者 BTグループ

11 地域の食文化の発展
かき氷サミット

みなと周辺に点在する地域の食文化を新しいコンテンツとして展開し、今治の食文化のブランド強化に寄与する。

参考事例
場所：神戸市
主催：神戸スイーツサミット 実行委員会

12 連続した小規模店舗による賑わい創出
屋台による出店
（軽トラ市・プレジャーボート市等の開催）

屋台のような比較的小さな販売スペースを設け、地元の生鮮品やご当地グルメを販売する。

参考事例（シンボル広小路）
場所：愛媛県今治市
主催：今治中心市街地再生協議会 にぎわい部会

13 今治らしさを活かした商品 特産品づくり、企画商品づくり

地場の技術を活かした、特産品もしくは企画商品をつくる。また、これらが今治を代表する商品になるようにプロモーションする。

参考事例（しかの藍工房）
場所：鳥取県鳥取市
主催：NPO 法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会

14 今治の名産品を身近に感じてもらう企画 B 級グルメ・タオル市

焼豚玉子飯、やきとり、今治ご当地の B 級グルメやタオルを集めた市場を開催する。

参考事例（ABC 祭り）
場所：愛媛県今治市今治商店街
主催：ご当地グルメフェスタ in 今治実行委員会

15 今治の風物詩をみなとで 水軍鍋イベントの誘致

今治地域のイベントである水軍鍋イベントを港で行う。

参考事例（土居のいもたき）
場所：愛媛県四国中央市土居町
主催：土居町いもたき運営委員会

16 ジャズが似合う上質な港の雰囲気を演出 ジャズマラソン・ジャズカフェ

今治市内のカフェやバーと連携してジャズマラソンを実施する。日中とは異なる、港町の雰囲気を演出する。

参考事例（横濱ジャズプロムナード）
場所：神奈川県横浜市
主催：横濱 JAZZPROMENADE 実行委員会

17 港空間を活かしたイベント企画 BARI NewPort Festival の実施

海、船に関心を持ってもらうために、港の空間を活用したイベントを実施する。

参考事例（BARI NewPort Festival Step1）
場所：愛媛県今治市
主催：今治市街地再生協議会みなと部会

18 港空間を活かしたイベント企画 おんまくの踊りをみなとで

600m のコンコースを舞台としておんまくの踊りを行う。新しい港のポテンシャルを活かし、一体型のイベント展開が可能。

参考事例（今治市民のまつりおんまく）
場所：愛媛県今治市
主催：今治市民のまつり振興会

19 市民目線の今治案内 ボランティアガイドの育成

今治の街の魅力をあらゆる角度から切り取り、観光客に伝えることのできるガイドを市民の中から育成する。

参考事例(ボランティアガイド)
場所：愛媛県今治市
主催：今治地方観光ボランティアガイドの会

20 みなとを学び交流の場に 講師を呼んでワークショップ（街の人が講師になる場合もあり）

みなとで常に何かが動いているような印象を広めていくため、講師を招いたワークショップを頻繁に企画する。

参考事例（小布施ッション）
場所：長野県上高井郡小布施町
主催：（株）文化事業部

21 地域の人材を活かす 人材バンクの設置

まちの特技を持つ人を登録した人材バンクを設置し、依頼があれば、連絡が取れるような体制づくり。

参考事例（かみのくにの達人）
場所：北海道檜山郡上ノ国町
主催：上ノ国役場

22 アート・芸術に触れる場 市民ギャラリーの設置

アーティストが滞在し、作品展示と創作活動を公開し、コミュニケーションが生まれるギャラリーを展開。

参考事例（新・港村小さな未来都市）
場所：神奈川県横浜市
主催：BankART1929

23 みなとの静かな時間を活用 読み聞かせ読書会

現在のみなとの静けさを活かして、子どもを対象にした読み聞かせや読書会を開催する。

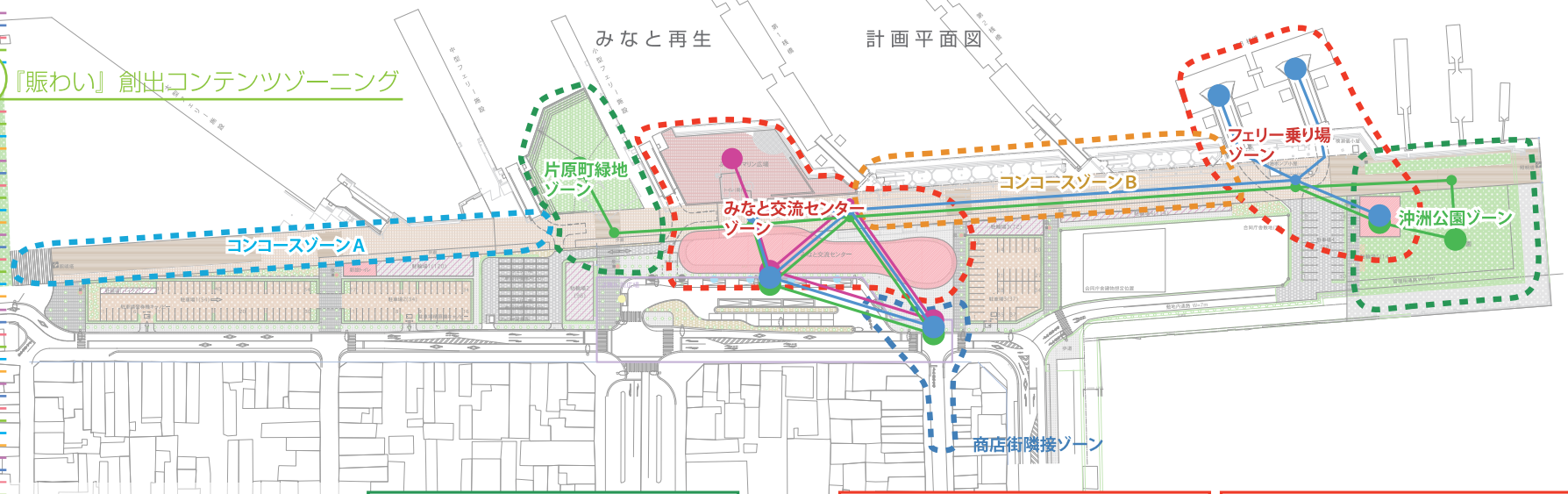
参考事例(真夏の夜の絵本ライブ)
場所：愛媛県今治市
主催：わくわく絵本サークル

24 建築群にみる今治の顔 丹下健三建築群ガイドツアー

今治出身の建築家丹下健三の作品を中心とした、有名建築群を見てまわるツアーを企画、実施する。

参考事例（アーキウォーク）
場所：広島県広島市
主催：アーキウォーク広島

2 『賑わい』創出コンテンツゾーニング



ゾーニングと可能性あるプログラムの検討

敷地の状況や人の動線を整理し、空間の性質からゾーニングを行った。さらに、各ゾーンにおいてどのようなプログラムが期待できるかを整理した。プログラムの整理にあたっては、ワークショップの結果を活用した。

人の動線
- みなと交流センター利用者
- フェリー利用者
- 公園利用者

片原町緑地ゾーン（パブリック度合　★★☆☆☆）

● 特徴
・みなと交流センターに近い、海に面した緑空間である。
・公園は小さい規模で計画されているため、その小スペースの特性を活かした屋外でのプログラムを展開するのに適した場所である。

● 可能性のあるプログラム、行為
昼寝、読書、屋外展示・ワークショップ、ピクニック、海の環境学習等

みなと交流センターゾーン（パブリック度合 ★★★★★）

● 特徴
・みなと交流センターとふれあいマリン広場を一体的に使用することで屋内、屋外ともに多様な活動を展開できる場。みなと空間の核となる部分である。

● 可能性のあるプログラム、行為
市民講座、まちづくり人材育成講座、ワークショップなどの各種体験教室、展示、販売、ジャズマラソン・ジャスカフェ等

フェリー乗り場ゾーン（パブリック度合　★★★★☆）

● 特徴
・海と陸を結ぶ結節点。海の駅としての活用が期待できる。

● 可能性のあるプログラム、行為
クルージング、貸しボート、サイクリングターミナル、カフェ等

コンコースゾーンA（パブリック度合　★☆☆☆☆）

●特徴
・人のアクセスが少ないため、静かな環境で取り組むプログラムに適した場所である。
・駐輪場に面しており、自転車に関する取り組みが行える場所である。

●可能性のあるプログラム、行為
昼寝、読書、音楽の練習、自転車カフェ、レンタル自転車、自転車を用いたガイドツアー等

商店街隣接ゾーン（パブリック度合　★★★★☆）

●特徴
・商店街に接続するゾーン。市内とのネットワークを形成する際に結節点となる。

●可能性のあるプログラム、行為
商店街空き店舗と連携したリレー講座、フリーマーケット、仕事場見学等

コンコースゾーンB（パブリック度合　★★★★☆）

● 特徴
・みなと交流センターと沖洲公園、フェリー乗り場とをつなぐ空間である。フェリーの乗客や沖洲公園の来園者など、多くの人の往来が見込まれるゾーンである。

● 可能性のあるプログラム、行為
朝市・昼市、魚市場、野菜市場、収穫祭、マルシェ、カフェ、アートギャラリー等

沖洲公園ゾーン（パブリック度合　★★★★★）

● 特徴
・多くの人を受け入れることができ、内港と一体的な使い方をすることによって、大規模なイベントにも対応できる場所である。
・内港に面しており、市街地を一望できる良好な場である。

● 可能性のあるプログラム、行為
おんまく花火観覧、おんまくダンス、イルミネーション、いも炊きイベント、フリーマーケット、B級グルメ大会、船上コンサート、みなと祭り等

前頁において整理した「みなと賑わい賑わいコンテンツ」を港で展開していくにあたり、今後さまざまな課題がでます。それら課題は、現在ワークショップに参加しているメンバーとともに解決していきます。本頁では、想定される課題およびその解決策について整理しました。

（1）活動の担い手育成およびサポーターの組織化

現在、仲間づくりのイベントを行っています。これからは仲間とともに多様なプログラムづくりを行っていきます。ただ、参加しているすべての人が、密な関わりを望んでいるとは限らないため、プログラムの担い手より、一歩引いた「サポーター」的な組織も検討していく必要があります。
活動の担い手育成およびサポーターの組織化に関して、今後取り組んでいけそうな内容を整理します。

講座形式による人材育成

現在のワークショップ参加者を含め、これから港でプログラムを実施していく人が、その意義や手法を学べるように、講座形式で人材育成を行う。ガイド役や情報発信役等の役割を担う人材を育成することが想定できる。

サポーター組織の構築

みなとで活動を担う人材育成と並行して重要なのが、直接的な活動者だけではなく、幅広い年齢層の人が活動を応援できるしくみである。現在進めている「今治だいすき倶楽部」はそのひとつです。「今治だいすき倶楽部」のメンバーに今後どのようなサービスを提供できるか、検討を進めていくことが必要である。

（2）コーディネート機関の構築

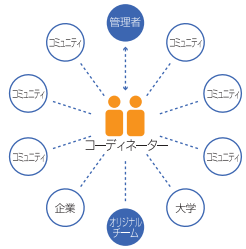
これからみなとで多様な活動を生み出していく必要があります。その際、必ずしも公共空間に適したプログラムだけが提案されるとは限らないため、プログラム内容を第三者的視点で公平に判断する必要があります。また、新たなプログラムを生み出していくため、幅広い活動者に呼びかけていくことが求められます。そこで、早期段階において港でのプログラムをコーディネートする組織を位置づけておく必要があ

プログラムの内容を審査し、運営のフレームを検討する「運営会議」

みなとが整備され、新たに活動の場が設定されることで、団体の利用が今後増えてくることが想定されます。プログラムを提案する団体の多くは有効的な活用方法を提案してくると思われます。しかし、中には公共の場にふさわしくない活動が提案される可能性があります。そこで、ICPC や今治市とは切り離した組織としての「運営会議」において、みなと空間に関わる様々な事項の検討・決定を行います。新規に活動を希望する団体のプログラム内容についての審査、新たな活動ルールなどについて検討・決定する「運営会議」を運営。

コーディネーターの育成

今後、場所や時間帯などの団体間の調整、新たな個人や団体に対する参画の呼びかけが重要です。各種団体（市民活動団体や地域団体、企業、大学など）、さらにはみなとの管理者との調整役を担うコーディネーターを育成し、配置することが求められます。



Coordinator

- 課題発見能力、問題解決能力
- 各コミュニティの調整能力
- 新規コミュニティの開拓能力
- 情報発信能力